

全6ヶ月のラジオ放送もいよいよ折り返し地点に差し掛かった。



写真左: バットンバンラジオ局9・10月度ゲスト DJ アイク・スオンさん

写真右: 左から、前ゲスト DJ ボウ・チャムさん、由見、DJ テリー、スオンさん、CMC 現地スタッフピセット(バットンバン放送局にて)

第13回 (バットンバン: 9月1日, バンテアイミエンチャイ 8月26日)

新ゲスト DJ アイク・スオンさんは昨年の番組の電話コーナーに参加するなど、番組のファンの一人。救急病院 EMERGENCY で電気関係の仕事に携わっている。ゲスト DJ をお願いすると、快く引き受けてくださった。

朗読された手紙より 1 通

両親との大切な家族のみんなへ

お父さん、お母さん、ずっと会えていなくて私は寂しいです。元気にしていますか？兄さんや姉さんも最近はどうな具合ですか？私は今職業訓練校の CWARS で勉強しています。とても元気ですよ。全く心配はいりません。ここは食事も宿泊も無料ですし、皆さんとても良くしてくれています。縫製コースで技術の習得に向け毎日頑張っています。ここを卒業して、家族のために仕事ができると思うと楽しみです。とくにこれといつても言うことはありませんが、最後にみんなの、特にお父さん、お母さんの健康を祈ります。早く帰ってみんなの笑顔が見たいな。

バンテアイミエンチャイ州 ヒアク・モム

朗読された詩より1篇

題名：障害者の奮闘人生 作者：バットンバン州 スレイ・ロング

例えどんなにきつい仕事でも
家族のために働けるのなら
一生懸命に頑張れる
僕は障害者
いつも自分の将来を考えてる
困難には屈しない
僕だって働けば稼げるのだ

稼いだお金の使い道だって自由だ
僕は家族のために使う
だから障害者の兄弟たちよ
めげず くじけず
懸命に働こう
輝きのある日常を手に入れよう！

インタビュー

バタンバン (FM103.25MHz) :

9・10月度バタンバン放送局ゲストDJ アイク・スオンさん (36歳, 地雷被害者) (生インタビュー)

私は左足のひざから下がありません。1987年から兵士をしていましたが、1990年に戦場で地雷にやられました。それでバタンバンの当時のソビエト病院に運ばれ、1ヶ月ほど治療を受けました。退院後、ワールドビジョンというNGOの職業訓練施設で9ヶ月間、電気技術を学ばせてもらいました。その施設を出た後は自分で習得した技術を使って小さな店を開いて商売を始めました。あるとき、EMERGENCYが電気技術者を募集しているということを知り、私もそれに応募しました。運良く採用され、今はEMERGENCYで働いています。障害者の皆さん、障害のことでよくよしないで下さい。それよりもこれからの自分の人生について熟考してみましよう。職業技術を障害者に無料で教えてください。NGOはたくさんあります。あきらめないで勉強して、挑戦しましょう。障害はあっても、あなたの態度次第でこれからの人生は大きく違うものになると思います。障害者には様々な困難が立ちまはりますが、そんなものはあなたの前向きな考え方で必ず克服できると思います。がんばっていきましょう！それからリスナーの皆さん、差別をする奴は卑怯極まりないと思いませんか？差別用語ではなくて、励ます言葉をあなたの周りの障害者にかけてあげてください。



バンテアイミエンチェイ (FM96.5MHz) : CWARS (Cambodian War Amputees Rehabilitation Society)

※第10回バタンバン局放送内容と同じ

朗読された手紙より1通

両親へ

CWARSに縫製を学びに来ているのもうしばらく会っていませんね。お父さん、お母さんのことが心配でたまりません。元気にはしていますか？わたしは元気でやっています、心配はいらないです。お父さんお母さんが今この番組を聴いてくれていたらすごく嬉しいです。わたしもわたしの心の声を詩にして協力したんですよ。早く会いたいです。ではお父さんお母さんの幸福と成功を祈って。

バンテアイミエンチャイ州 フアク・モム

朗読された詩より1篇

題名：障害者になって 作者：バタンバン州 インゲン・サロン

障害者の人生

それは苦痛の人生

それは試練の人生

それは意味のない人生

それは孤独な人生

それは出口のない人生

全ては足を失ったせい

全ては憎き地雷のせい

昼過ぎの談笑でさえ

惨めな気持ちになる

でも嘆いたところで何も変わらない

意識を改めよう

例えその道がどんなに困難でも

私たちは頑張らなければならない

学ぼう 働こう

得られるお金は健常者より少ないかもしれない

それでもいいではないか

大切なのは楽しく生きることだ

さあ、将来に目を向けてみよう

インタビュー

ピッチ・スレイリアンさん（21歳、ポリオ）

私は2歳のときに小児麻痺にかかり、それ以来左足が不自由です。幼い頃は学校に通うことが困難でした。それでも頑張って学校に行っていましたが、中学1年生で勉強をストップしました。本当は勉強を続けたかったのですが、家計を支えるために、仕事を始めることにしたのです。職業訓練校のCWARSに行く機会を得たのは今年です。今は6ヶ月の縫製コースで学んでいます。卒業したら自分で商売をするのが楽しみです。障害はあるけど頑張ります。私はつらいなんて感じたことは一度もありません。最後に、障害者の皆さん、強く生きていきましょう。自分の可能性を信じてあげてください。体の障害は私たちの人生の障害ではないと思います。前向きにいければ、道はいくらでも開けます。



ノップ・ンゲさん（32歳，地雷被害者）

2002年、私はパイリンで竹藪に入っていたときに地雷を踏んでしまいました。両足ともに失いました。事故直後、EMERGENCYに運ばれ、そこでおよそ2ヶ月間入院して治療を受けました。自宅に戻ってからはまたベッドを造る仕事を再開しました。あるとき、職業訓練センターのCWARSのことを知り、すぐに入寮を決めました。今、バイク修理コースで6ヶ月間学んでいる最中です。地雷の被害にあってしばらくは精神的なショックから立ち直ることができませんでした。



以前は自由に動いていた足が突然なくなり、何をどこでするにしても車椅子から降りることができなくなったのです。でも今はもう大丈夫です。車椅子での生活にも慣れました。障害のことはもう嘆きません。足があった以前のように働くことはできないと思いますが、それでもしっかり家族を養えるようになるために毎日頑張っています。できることは何でも挑戦します。最後に、障害を抱えた皆さん、体の障害のことを毎日嘆いてるだけでは何も始まりません。障害者だって仕事はできます。障害者を支援するNGOは探せばたくさんあります。強い意思で努力を続ければ必ず人生に光が見えてきます。

第15回（バタンバン:9月15日，バンテアイミエンチャイ9月9日）

朗読された手紙より1通

障害を抱えた皆さんへ

まず始めに、今現在、病院で治療されている障害者の皆さん、特にバタンバンのハンディキャップインターナショナルで治療をされてる皆さん、そしてバタンバン州の全ての障害者の皆さん、元気ですか？僕はとても元気です。リスナーの皆さんはどうですか？別に何か言いたいわけでもないの、このラジオを今聴いている皆さん、特に障害者の皆さんのこれからの人生の成功を祈って終わります。入院中の障害者の皆さん、頑張って治療に励みましょう！希望を持って、困難に立ち向かっていきましょう！

バタンバン州 ソク・チャン

朗読された詩より 1 篇

作者：バンテアイミエンチェイ州 ヴォン・メイト

障害者は哀れだ
いつもいつも
困難の壁が目の前に立ち塞がっている
自分とはもかく
愛する家族を支えることも難しい
障害のない皆よ
おれは森にさえ入らなければ
忌々しき地雷を踏むことはなかった

注意してもしすぎることは無い
踏んだが最後
おれのような哀れな身になる
でもおれには家族がいる
愛すべき子どもたちがいる
それだけで幸せなんだ
地雷はあるけど
カンボジアに生まれて良かった

インタビュー

リン・イエーンさん (21 歳, 地雷被害者)

1991 年、11 才の時に事故に遭いました。友達数人と田んぼへ遊びに出たときに急に爆発したんです。治療はバットンバンの大きな病院で受けました。そこで 1 ヶ月ほど入院しました。足が不自由で学校は小学校を出た後は行っていません。今現在、職業訓練校の CWARS で TV 修理を勉強しています。この学校を卒業した後に習得した技術を使って自分で商売ができるのかと思うととても嬉しいです。技術を自分のものにするために日々まじめに取り組んでいます。障害者の皆さんへメッセージを送ります。どうかあきらめないで、自分の得意分野で仕事を頑張ってみましょう。無くした腕や足は使えませんが、頭さえあればどんな事だってできるはずです。困難に打ち克っていきましょう。



モン・ターさん (46 歳, 地雷被害者)

地雷を踏んだのは 1981 年です。政府がバンテアイミエンチェイ州国境周辺で米の配給を行なっていました。その配給を受けるために国境へ向かって歩いていた時に地雷被害に遭いました。すぐにタイの病院に運ばれ、それから 1 ヶ月ほど治療を受けました。家に戻ってからは、日雇いの仕事など、家族のためにお金になることは何でも精を出して働きました。今は CWARS でバイク修理を学んでいます。せっかく与えられた、職を得るための貴重なチャンスです。家族の生活の質を改善するためにここでしっかり頑張る技術を身につけたいと思っています。障害者の皆さん、ギブアップはなしです。障害者であっても、やる気次第で何でもできます。自信を持って前向きに生きていきましょう。